

# SAXOPHONE

## サクソフォーン

### 指のポジションやフォーム、キマっていますか？

## 大石将紀 おおいし・まさのり



- ◆出身 千葉県立船橋東高校、東京芸術大学、パリ国立高等音楽院
- ◆所属 東邦音楽大学
- ◆趣味 旅
- ◆血液型 B型
- ◆星座 おひつじ座
- ◆読者にひとこと 旅に出よ！
- ◆手紙の送り先 BJ 氣付

僕が初めてサクソフォーンを近くで見るとき、「金ピカでかっこいい」という感想の次に思ったことは「たくさんボタンがついていて難しそう」でした。とはいえ、吹き始めてしばらく経っているみなさんにはわかると思いますが、基本的な指づかいは簡単です。押さえている指を下から順番に開いていけば「ドレミファソラシ」ですからね。

では半音階は？ ここから少しやっかくなります。僕が始めた中1のころ、この半音階さえできれば指づかいは全部覚えたようなもの、すなわち「一人前になれる」気がして、必要以上に半音階の速吹き練習をしていた思い出がありますが、心配はいりません。複雑といえども合理的に発明され、効率のよい運指になっているので、一度マスターしたら指にしっくりくるはず。アドルフ・サククスさんに感謝しながら、繰り返し練習してください。上行・下行とも、最初は頭の中を整理しないとこんがらがると思いますが、体が覚えて指が勝手に動くまで繰り返し練習します。

#### ■それぞれの指は、この位置・この形で

始めて間もない人だけでなく、大学生をレッスンしていても、手の形や指のポジションが悪く、効率よく動かせていない人を見かけます。最初は限られたキイしか使わなくても、レベルが上がれば上がるほど、すべてのキイを跳躍を伴って、そして速いスピードで押さえなければならなくなります（スポーツのように！）。それらのキイに最短距離・時間で到達できるように、指は最適ポジションでスタンバイしていなければなりません。

#### ①左手親指

オクターヴキイを押していないときも、指の先端はキイから離れないようにします（【写真1】）。親指置きには親指の腹を置き、そこを軸にして先端を「クイクイ」と上下させてキイを押します。押すたびに指全体を離して、指のつけ根までバタバタとさせている人

がいますが、機敏に動かすことができません。

バリトンのみについている最低音Aのキイは、親指置きをはさんで反対側についているので、親指の腹を軸にして第1関節あたりで押すのが理想です（【写真2】）。ただしある程度手が大きい僕でも簡単ではないので、手が小さい人は、この音だけは親指置きから離してしっかりと押してください。

#### ②右手親指

楽器の重さを支えられるような形をしていますが、実際のところは親指を軽くひっかけて楽器を固定させる程度です。楽器の重さはほとんどストラップで支えます。

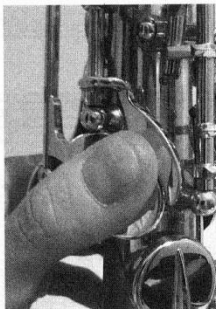
親指以外の指が、丸いアーチの形を保ったままでキイを押さえるくらいの余裕を持てるように親指を置きます。手の大きさにもよりますが、親指の第1関節より先端にひっかけ、腹で軽く前へ押すような感じです。

#### ③それ以外の指

手の力を抜いてぶらーんとさせた状態のとき、自然と指は丸くなりますね。よけいな力が入らず効率よく動くよう、この自然な丸い形の手で、そして最も繊細な動きができる指の腹の上のほうでキイを押さえるようにします（【写真3】）。指が寝てしまうと力が入って動きが大きくなり、バタバタするばかりか、コントロールが難しくなって指が軋びやすくなります（【写真4】）。またサイドキイへのアクセスも悪くなります。

音の変わり目をはっきりとさせるため、キ

【写真1】



【写真2】



【写真3】



【写真4】



イを押すときはすばやく。また、ゆっくりの曲を吹くときに、指までゆっくり動かしてしまふと音のつながりが悪く、しかもキイの連結メカニズムがうまく作用せずに音がひっくり返る原因となります。

#### ■「キイノイズ」にご用心

複雑な構造のサクソフォーンは、キイを押すと他の管楽器よりカチャカチャと大きく音を立てます。これが「キイノイズ」で、現代音楽では、わざとこの音を出して打楽器のように使ったり、手をバタバタと動かして雨が落ちる音のように聴かせたりと、いろいろと可能性のあるものなのですが（後日「特殊奏法」の回で紹介します）、クラシック、特にソロのときは、純粋な音を邪魔する雑音となってしまう。キイノイズをあまりさせないためにも、キイを押していないときは、指をキイの白いところからあまり離さず、押すときも静かに押すようにしましょう。

指をリラックスさせながら正確に動かすのは、始めて間もないうちは、指や手の筋肉がサクソフォーンの形にそって発達していないので難しいかもしれません。そこで、手の正しい形はキープしつつ、意識的に指に力を入れて大きめにしっかり動かしながら音階などを練習し、筋肉をつけるトレーニングをすることも大切です。指が思うように動いてきたら、むだな動きや力を取り除いて、静かに動かすようにしていきましょう。